

第1学年 特別の教科道徳 学習指導案

1 主題構成表

主題名：公正，公平

<内容項目：C-11>

資料名：「傍観者でいいのか（いじめのない世界へ）」

<出典：東京書籍 新しい道徳1>

■ 内容項目 C-11

正義を重んじ、誰に対しても公正，公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。

■ 内容項目から見た生徒の実態

- ・ 仲間のために行動したり、仲間の行動の裏にある想いを考えて行動に移したりできる姿がある。
- ・ 仲間への配慮を欠いた行動，言動があったり，またそれを見逃したりする姿がある。

■ 要因

- ・ 相手がどのように感じるか考えていないため，自分の行動や言動が相手にどのような影響を与えるかを分かっていない。
- ・ 目の前で起きていること不正に関わりたくない気持ちや逃げたいという弱い気持ちがある。

■ 価値の分析

- ・ 正義を重んじるということは，正しいと思うことを自ら積極的に実践できるように努めることである。よりよい社会を実現するには，自他の不正や不公平を許さない断固とした姿勢と力を合わせて積極的に差別や偏見をなくす努力をすることが大切である。
- ・ 人は他者との関わりにおいて，差別や偏見のない社会にしたいと思っている。一方で中学生という成長段階では多数の意見に流されたり，周りからの視線を気にするが故に誤った行動をとってしまったりする。よりよい社会を実現するためには，そのような不正を断固として否定する絶対的な価値観を持つ必要がある。
- ・ 「いじめ」などの明らかに誤った行為に対しては，その経験の有無に関わらず，その行為が絶対に許されないことであると思えるところに正義感の高まりがある。いじめの悲惨さを十分に理解し，許されざることだという認識を共有することによって，その心情は養われる。

■ 資料の分析

- ・ 本資料は，主人公の「私」がクラスでBさんにいじめられているAさんの様子を心苦しく見ているが，何も手を差し伸べられない様子が描かれている。傍観者の視点からいじめについて考えることを通して，人間の弱さを克服し，自らの意思や判断で責任ある行動をしようとする態度を養う。
- ・ 基本発問では，いじめられていることに気付いていながらも，行動を起こすことができない主人公の気持ちを考えることで人間の弱さに気づく。
- ・ 中心発問では，CさんがAさんを助けようとする発言から，「私」のこれまでの行動の過ちや行動できなかった自分の弱さに気づき，自らの意思や判断で，責任ある行動をとることの大切さを理解する。

■ 本時のねらい

傍観者の視点からいじめについて考えることを通して，いじめをなくすには，それを否定する強い意思を持つことや人間の弱さを克服していくことの大切さに気づき，自らの意思や判断で責任ある行動をしようとする心情を育てる。

■ 展開の構想

- ・ 主人公の「私」が学級委員として，いじめられているAさんを心配しているが，何もできずにいる気持ちに共感させることで，傍観者の気持ちや心の弱さに気付かせる。
- ・ 「私」がはっとした時の気持ちを考えることで，本来すべきであった行動や弱さを乗り越えて行動を起こすことの大切さを理解させる。
- ・ 今までの自分がどのように行動していたか具体的な場面を想像したり，自分の弱さに気付いたりすることで，今の自分にできることや今後あるべき行動について考えさせる。

■ 基本発問（◎中心発問）

- 「私」がAさんがいじめられていることに気付いていたのに行動できなかったのは，どんな気持ちだったからだろう。
- ◎ 「私」は，はっとした時どんな気持ちだったのだろう。
- 自分が「私」だったら，行動していただろうか。

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	<p>(1) 前時の内容を振り返り、価値、資料への導入をする。</p> <p>□いじめの定義、構造について前時の内容を振り返る。</p> <p>(2) 資料「傍観者でいいのか」を範読する。</p> <p>□資料を読んで、問題だと思った行動について感想を発表する。(全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BさんがAさんに荷物を持たせたり、からかったりしていることが何よりもの問題だ。 ・周りで見っていた人が何もできなかったことも問題だ。 ・「嫌だ」と言うことができなかつたAさんにも問題はあるかもしれない。 ・主人公の「私」も何もできなかったので問題だったと思う。 <p>(3) 資料について全体追究する。</p> <p>○「私」がAさんがいじめられていることに気付いていたのに行動できなかったのは、どんな気持ちだったからだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関わりたくない、巻き込まれたくない。(自己中心性) ・周りからどう思われるか。(世間体) ・誰かが行動するだろう。(傍観) ・自分が標的にされるかもしれない。(憶測) <p>◎「私」は、はっとした時どんな気持ちだったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Cさんのように動かねばならなかったのは自分だったと気づいた。 ・なぜ自分は助けてあげることができなかったのだろうと後悔した。 ・辛くても誰にも相談することができなかったAさんの気持ちに気付いた。 ・自分もAさんを苦しめていた一人なのかもしれないと考えた。 <p>○自分が「私」だったら、行動していただろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も行動できなかったと思う。周りを気にして行動できなかったり、巻き込まれたくないという気持ちが先行してしまったりしていたと思う。 ・行動した方が良い、行動したいと思う自分がいたが、できなかった。 <p>(4) これまでの自分を振り返り、今後の自分について考える。</p> <p>○これまでの自分はどのように行動していただろう。また、今後誰かが嫌な思いをしていることに気付いたり、いじめられていることに気付いたりしたとき、これからの自分は何ができるだろうか。(個人→グループ→全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで、からかいやひやかしがある姿を見ているながらも、何も言わなかったり、同調して笑ったりしていた自分がいました。それは楽しさではなく、誰かを傷つけてしまうだけなので、今後は仲間がづらい思いをすることや良くないことを否定していける強い心をもって生活していきたいです。 	<p>指導・援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの問題には加害者、被害者、観衆、傍観者が存在していることを確認する。 ・前時の内容を振り返り、本時は「傍観者」の気持ちからいじめについて考えることを伝える。 ・誰のどのような行動が問題なのかという視点で考えさせながら範読する。 ・感想の交流を行う中で、Aさんがいじめられていることに気付いていながらにもできなかった主人公の気持ちに生徒の意識を焦点化する。 ・基本発問では、気付いていたのに行動に移すことのできない心の弱さがあったことに気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>人権教育の観点 <付けたい力> 【自己啓発力】 傍観者の視点からいじめについて考えることを通して、人間の弱さを克服し、自らの意思や判断で責任ある行動をしようとする心情を育てる。 <そのための手立て> 今までの自分と、いじめに対する認識について振り返らせ、変容した部分や認識を強めた部分について語る生徒を価値付ける。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の心の弱さに気づき、傍観者の罪深さや本来すべきであった行動について考えることで、それを乗り越えていくことが、よりよい集団や社会を実現させていくことを理解させ、本時のねらいに迫る。 ・意見交流が停滞した時には、ペアで自分の考えを伝え合う時間を設ける。 ・これまでの傍観者としての自分を振り返ることで、実際に経験した場面を想起し、自分の心の弱さや、いじめに対する認識の甘さに気付かせる。 ・いじめをなくすには行動に移すことが大切であるということはこれまでに学んできており、理解はしているからこそ、これまでの自分がどうであったのか、具体的な場面を想像したり、弱さに気付いたりできるかどうかが大変重要である。自身の姿に目を向けた上で、今の自分にできることや今後の生活について考えさせる。
展開前段		
展開後段		
終末		